
数字だらけの数奇な運命

月影

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

数字だらけの数奇な運命

【Nコード】

N86100

【作者名】

月影

【あらすじ】

貴方は、ゲームの世界に入りたいと思ったことは無いだろうか？ギャルゲーの世界に、好感度を上げつつ充実した学園生活を送りたいと、一度たりとも思ったことは無いだろうか――？

目に入る情報が、数字として「見える」少年、井上彰と彼を取り巻く人々の日常を、ギャルゲーの様にだらだらと流していく物語。

更新不定期です。作者の個人的な趣味全開です。

話数——01（前書き）

不思議電波を受信したので書いてみました。

初心者ですが、拙いなりにも頑張っていけますので宜しく願います。

殆どが作者の自己満足になる駄文ですが、よろしければ見て行ってください

さて、突然だがあなたはゲームをプレイしたことがあるだろうか。

それも俗に言うRPG等であると尚良い。

ギャルゲーなんてものと更に分かり易くなるかもしれない。

ともかく、所謂ゲームと呼ばれる代物をプレイしたことがある人は多いと思う。

さて、これらゲーム上ではあらゆるモノは数字で判断される。

RPGでは、ゲームキャラクターは攻撃力と守備力で戦い、ダメージはHPの割合で計算される。

シューティングゲームは一見数字は見えないが、各自のHPや能力は設定されている。

格ゲーではコマンドとHPで戦い、ギャルゲーでは好感度でヒロインが変化する。

そう、ゲームの世界とは数字の世界なのである。

さて、この数字の世界であるゲームの世界だが、一見合理的で便利

に見える。

数字上でしかやり取りされないのだから無茶苦茶な行動も簡単にできる。

よくRPGなんかでバグだの裏ワザだのはそういった数字のミスから起こる物がほとんどだ。

そんなゲームの世界に入りたいと思う人は多いだろう。

けれど、警告する。

決して、数字の世界を望んではならないと。

望めば、いや手に入れば必ず後悔するだろう。

望みすらなかった俺が、手に入れたいとさえ思っ てなかった俺が、

心から後悔し絶望した様に…

話数——02

朝。

耳元で目覚ましがけたたましく鳴っている。

現在時刻——07（時）：05（分）：26（秒）：3645

未だはつきりしない頭を振りながら起き上る。

今日は何曜日だっただろうか。

日付——2010（年）：05（月）：28（日）：（金）

ああ、そうだ、今日は金曜日。

平日だから学校へ行かなければ。

眠い眼を擦りつつ朝飯の食パンを適当に焼いて食べる。

一緒に食べる人間はいない。

両親とは疎遠。一応実家であるこの家に親が返ってくるのは一週間一度程度。

三人揃った「家族の団らん」というやつは数年前から見失っている。

「ごちそうさま」

誰もいないリビングに声が響く。

けれど、それを寂しいとは思わない。

他は知らないが少なくとも自分は誰かと触れ合うより一人の方が好きだ。

鞆に教科書の類を詰め込む。

いつもより少し多いが大丈夫だろうか。

容量——16L / 21L

問題無し。

制服に着替え、家を出る。

学校へは歩きだが約18分ほどかかる。

平均通学所要時間——17・4367（分）

ああ、正確には約17分か。

とにかく、一番近いという理由で入った高校だから家からかなり近い。

理由はもちろん、長い間電車やバスなどに大勢の人間と閉じ込められることなどまっぴらだからだ。

少しばかり「学力」が必要だったが特に苦勞することもなく入れた。

現在学力——3542（SC）

最も、授業を真面目に受けていない現在の学力はそこまで良いとは言えないのだが。

まあ低学力校のチンピラ等から離れられた事は予想外の利益だった。

さて、そんな自称先進校は今日も律儀に生徒に授業を受けさせるべく慌ただしい空気に包まれていた。

「ようー！」

後ろから誰かが声をかけてきた。

声の主を確かめるべく、後ろに振りかえる。

個人情報――

サカモト

坂本 拓武 タクム

年齢：16（歳）

性別：♂（―）

身長：172（cm）

体重：60（kg）

好感度：1852（Fr）

感情：583（Em）

学力：2872（Sc）

：

「おはよう。坂本」

声をかけてきたのは坂本拓武。

無駄に輝いている運動系スマイルが人気の男子だ。

「おう！ 今日も暗っらい面してんな！」

それと、この素直で正直な所も。

時折声が煩いことさえ気にしなければ多くの人に好意的に受け入れられる人物だろう。

「まったく、今日が何の日かわかってるのか？」

「何の日さ？」

「体育があるじゃねーか！」

満面の笑みで答えを返す。どうやらコレが言いたかったらしい。

……まあ頭の出来がお世辞にも良いとは言えないのが玉にキズではある。

「おい、坂本ー、朝練始まるぞー！」

グラウンドの方から叫び声と口に手を当てている同級生らしき影が見える。

どうやら同じ部活の人間らしい。

「おう！ 今そっち行くー！」

その影に叫び返して走り出す。

「んじやなっ」

後ろを向いて手を振りつつグラウンドの方に走っていく。

まったく、騒がしい奴だ。

まあ、嫌いではないが。

「相変わらず煩い奴ねー」

今度は横から誰か話しかけてきた。

個人情報――

シバタ
柴田 麻衣

年齢：16（歳）

性別：♀（――）

身長：160（cm）

体重：51（kg）

好感度：1437（Fr）

感情：725（Em）

学力：3908（Sc）

：
：
：

「おはよう、柴田さん」

今度の人は柴田麻衣。現在のクラスメート。特に知り合いではないのだが稀に挨拶してくることがある。

まあ挨拶ぐらい何もないが。

「さんは付けなくても良いんだけどなあ。まあいつか」

言いたいことは特にないらしく、そのまま去っていく。

さて、教室へ向かおうか。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8610o/>

数字だらけの数奇な運命

2010年11月20日02時30分発行